

平成30年度事業報告書

2019年 3月31日
公益財団法人 日本セーリング連盟

平成30年度事業報告

公益財団法人 日本セーリング連盟

<全般>平成30年度事業報告総括

平成30年度は、世界選手権、アジア大会で金メダルを獲得、またテストイベントを兼ねたワールドカップシリーズ江の島大会を成功させるなど2020年オリンピック開催国のセーリング競技に弾みをつけた年であった。

役員改選で理事・監事に女性割合が拡大するとともに、加盟団体との情報交換会を開催するなど、女性の活躍、ジェンダーイコールへの取り組みが進んだ。
また、加山雄三さんとタイアップした「海 その愛基金 海洋環境クリーンプロジェクト」を開始するなど、セーリングからの地球環境持続可能性活動を進めた。

1. セーリング・スポーツの発展振興と安全確保

テストイベントを兼ねたワールドカップシリーズ江の島大会、ハンザ級世界選手権などを開催し、成功裏に終了した。
国際大会開催にあわせオリンピックレース運営担当者の人材確保と育成を促進した。
FISユニバーシティ・ワールド、ユースマッチ、ユースワールド、ユースオリンピックへの派遣、2019年ユニバシアードへの派遣準備などユース世代の育成、支援を行った。
沖縄東海レース、2024年オリンピックの外洋レースの準備、ジャパンカップ委員会設置など大型艇・外洋艇レースの振興を図った。
ライフジャケットの義務化とレースでの例外措置の周知を進めた。またセーリングの安全について海上保安庁との情報交換会、ヨット体験会を行った。
アンチドーピング活動を促進するため、医事科学委員会にドーピング小委員会を設置した。

2. 広く普及啓発し、セーリング界の裾野を広げる

子供等を対象に全国11か所、「海と日本プロジェクト」を活用した普及啓発イベントを開催し6000人を超える参加があった。また、インターナショナルボートショーで、セーリング界関係者と共同で子供からのセーリングを勧めるブース展開を行い、体験乗船などにつなげる普及啓発を行った。
オリンピック応援のフラッグリレーが、本州日本海側、九州、沖縄・先島諸島等を回り、各地でのオリンピックへ向けての盛り上げとセーリングの普及振興が進めた。
チャイルドルームをワールドも含む5大会で実施し、女性セーラーの大会参加の促進と観戦者の便宜を図った。
セーリング界の外のファンを開拓するために、マスコミへの情報提供や、ボートショー始め様々な機会にセーリングのPRを行った。

3. セーリング界を支える連盟組織の強化

役員改選で女性割合の拡大が進んだ。加盟団体との女性セーリング界の現状や課題についての情報交換会を開催した。
JSAFホームページの更なる充実を図るなど一般広報の強化に努めた。
ボートショー、海と日本プロジェクト、海 その愛基金海洋環境クリーンプロジェクト対応など委員会横断的な活動を活発的に進めた。

JSAF 総務 委員会 委員長: 安藤淳 副: 庄司 一夫, 横田 昌剛

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
1. 新たな公益財団法人としての組織運営への対応 (1)公益財団法人として相応しい主要会議体の運営と、それを実行する運営体制の整備・強化を、関係委員会と連携しながら推進する。 ・理事会の開催(3ヶ月毎) ・評議員会の開催(年1回) ・全国加盟団体代表者会議の開催(年1回) (2)中央競技団体としての更なる自律・自立を目指し、将来方向(ガバナンス強化、組織・財務基盤の強化、運営の適正・合理性の確立、加盟・特別加盟団体との連携強化)を見据えた諸規程・基準の継続的見直しと、運用面での適正な実施を間 (3)アスリート委員会、障害者セーリング推進委員会の事業計画遂行への支援を、関係委員会と連携して行う。	通年	岸記念体育会館 会議室等	理事会、評議員会、全国加盟団体代表者会議(含む、定期表彰)は計画通り開催することが出来た。 総務委員会は、原則として月1回開催し、理事会付議事項等について討議、検討を行った。 JSPO等の統括団体主催のNF向け会議等への参加を通して、中央競技団体としてのガバナンス強化の重要性を認識するとともに、JSPOからの調査等へ関連委員会と連携し対応した。 来年度は、中央競技団体に対するガバナンスコードが策定、開示されることから、同ガバナンスコードに対応する各項目について、現状の再確認と研修カリキュラムの検討、役員選任方法の見直し等、諸対策を行っていく。 障がい者セーリング推進委員会に対する活動支援を継続して実施した。
2. 会員管理新システムの加盟・特別加盟団体・会員向けサービスの継続的向上 (1)年会費決裁代行への原則移行、カード会員証の原則廃止について、加盟・特別加盟団体の要望を踏まえて適切に進め (2)会員管理新システム稼働後の運用状況をモニタリングし、会員、加盟(特別加盟)団体に対する更なるサービスの質的向上を実現する。 (3)JSAFが管理する情報システム(ホームページ、会員管理システム)のサイバーセキュリティ上の脆弱性を検証し、必要な対策を講ずる。	通年	岸記念体育会館 会議室等	決済代行者の増加とともに、現行システムの使い勝手の改善要望の反映に努めるも、現行システム構成では限界があるため、次年度以降の抜本的なシステム改善に取り組むこととしたが、最終段階で機能仕様を確定できず、改善後システムリリースを延伸することとなった。 来年度は、上記機能改善版の円滑なるリリースと、残課題の対策に注力する。 上記会員管理システムの抜本的改善に併せて、内閣官房からの要請を踏まえ、サイバーセキュリティ、個人情報保護の観点からの対策について、同様の課題を抱える競技団体との連携を視野に入れ、対策を実行することとしたが、2018年7月にHP改ざん事故が発生。
3. JSAF公認、加盟(特別加盟)団体主催行事における適正運営の継続的実施 (1)JSAFが公認・後援し加盟(特別加盟)団体が主催するレース等の行事(日本開催の世界選手権を含む)の実施に対して、安全管理対策の徹底を関連委員会 (2)同上行事における、主催者保険の付与の徹底を継続して推進する。	通年	岸記念体育会館 会議室等	WSの要請に基づき、事故報告体制の構築を関連委員会とともに、検討し、来年度以降の運用基準を策定した。 次年度は、上記運用基準に基づく運用の実質化をモニタリングし、関連委員会とともに、運用実態の向上に努める。 ワールドカップ、世界選手権等の開催が増加することから、関係委員会と連携し、主催者保険付保に万全を期す。
4. JSAF事務局業務の効率化の推進(前年度から継続実施) (1)事務局業務の質的向上と効率向上を進める。 (2)IT機器を含めた事務機器の効率的活用を検討し、業務の効率化と組織内コミュニケーション能力の向上を図る。 (3)JSAF運営資料のデータベース化を促進し、業務内容の質的向上を実現す 5. 表彰関係活動の充実(前年度から継続実施)	通年	岸記念体育会館 会議室等	月1回開催の総務委員会において、課題整理を継続して行ったが、会員管理システムの稼働準備、稼働後の対応、並びに新規案件の検討、支援(障がい者セーリング推進委員会活動支援、等)に追われ、具体的業務革新は深耕できていない。 次年度は、事務局事務所移転が予定されており、この円滑なる実施に万全を期すとともに、システムの抜本的改善に取り組む。 平成30年度定期表彰は、2019年1月の全国代表者会議にて受賞者に対する表彰式(賞状、副賞授与、記念撮影)を挙行了した。 表彰式出席者への表彰状送付を表彰式当日に完了できた。 次年度も、定期表彰式の進捗について事前準備を十分行い、受賞者に対する格調、表彰式出席者等へのフォローアップに万
6. 2020東京オリンピック・パラリンピック対応(前年度から継続実施) (1)オリンピック・パラリンピック準備委員会との連携を図り、2020年実現へ向けた総務委員会としての所要の業務を遂行 (2)2020東京オリンピック・パラリンピック開催準備へ向けて、財政委員会他関係委員会との更なる連携により、JSAF運営体制の強化を図る。	通年	岸記念体育会館 会議室等	障がい者セーリング推進委員会事業計画に基づき、同委員会の最重要課題(ハンザワールド広島大会開催支援、障がい者セーリング普及・強化拠点の選定、及びハンザ広島大会調遣艇の普及・強化拠点への重点配備、ワールド日本開催ドカブにおける障がい者種目の開催、2020パラワールド日本開催招致、開催水域選定)の実現へ向けた取り組みに対して、関連委員会として積極的な支援を行った。 次年度についても、上記と同様に支援していくとともに、オリンピック準備委員会、及び同実行委員会に対して、大会参加者費用支払いに関する決済代行の導入支援等、大会運営へ向けた支援を行っていく。
<備考:反省点等>			

JSAF 財政

委員会 委員長: 地川浩二

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
H29年度決算案の策定	4-5月	JSAF事務局	H29年度決算案を事務局担当者、顧問会計士と連携し策定した。
H30年度1次補正予算案の策定	5-6月	JSAF事務局	H30年度1次補正予算案を事務局担当者と連携し策定した。
顧問会計士と打合せ	4-3月	JSAF事務局	顧問会計士と経理処理について打合せを行った。
渋谷税務署対応	10-3月	JSAF事務局	渋谷税務署による、国内/海外事業に関する源泉所得税調査に対し、オールJSAFで一貫対応し適切に対応した。
支払依頼書ルール策定	5月	JSAF事務局	支払依頼書に関して、「証憑添付」予算内執行の期中モニタリングを徹底、また支払承認ルートを明確化しガバナンス高度化を図った。
源泉所得税処理ルールの明確化	3月	JSAF事務局	事務局とも連携し、源泉所得税の処理ルールならびに領収書・発注書の完備ルールの周知を図った。
監査法人・連盟監事対応	5月	JSAF事務局	監査法人・連盟監事の監査に立ち会い指摘事項等について対応した。
H30年度2次補正予算案の策定	8月	JSAF事務局	H30年度2次補正予算案を事務局担当者と連携し策定した。
H30年度3次補正予算案の策定	2月	JSAF事務局	H30年度3次補正予算案を事務局担当者と連携し策定した。
H31年度当初予算案の策定	12-3月	JSAF事務局	H31年度当初予算案を策定した。

<備考:反省点等>

急ぎを要する支払や、決算期を跨いだ未払金処理等、財政委員会や事務局との連携が不可欠な事象に対する、各委員会への啓蒙が不足している

JSAF 事業開発

委員会 委員長: 安藤正雄 副: 師田充夫、角野吉剛

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. イベントでの商品販売	毎年3月初旬	横浜みなとみらい	本年は出店ブース申込時点より、当委員会は関与することなく、広報・環境委員会の皆さんがセーリング普及推進の為、セーリングウィンドセンターに展開され、またオリビックブースも同じエリアでの出店で、当委員会の物販販売はなしとなり、2017愛媛国体で5日間現地入り販売活動された委員を本年より副委員長として更なる活動に尽力頂くよう、事前打ち合わせに出席して福井国体に備える予定でしたが、諸経費等が高値で再考していたところ、国体の総務部が代行することにより、申し出を頂き、教員一任となりました。送った商品までも、JSAF事務局担当に渡して代行を任せたとのこと。国体終了後、JSAFロゴ付会員のグッズ製作を中心に考えています。その他のロゴ付一般用に販売している商品は在庫管理は勿論のこと、残数処理にも配慮し、加盟団体から受注の出来るような商品企画により販売活動を目録にする。
ポर्टショーでの出店形態変更		パシフィック横浜	
2. JSAFロゴ入り商品等製作	通年	福井国体	商品保管、受注発送管理等の委託先を検討していましたが、取り扱える商品が少なく、また会員向けのエンブレム、ネクタイ、カーフタイ、ピンバッチ等は会員に向けて早い発送等が必要、然しながら経費を抑えるの運営を考えるとJSAF事務局での業務としてお願いすることが賢明かと思えます。当委員会はロット販売を主に、その商品企画・製作担当と考えます。2018年も年末の各イベントにて不動産在庫商品を抽選会賞品にご利用頂き少しでも在庫処分販売が出来て良かったです。
3. JSAF販売商品の管理	通年	業者への委託	JSAFカレンダーも名入れ受注立案、リサイクルバックのロット販売、五輪の記念JSAFフラッグ、油圧式名入れボールペン、防水紙のメモパッド、JSAFオリジナルハンカチーフ、マリネデザイン商品企画等、マーケット調査の上検討して参りたく存じます。
4. 不動産の取り扱い	年度末	関係者等のイベント会場	
5. その他			

<備考:反省点等>

当委員会は、他部署の商品制作、例えばフラッグ等、また海ブrosの商品制作等に協力させて頂き嬉しく思います。 半面、委員会の事業実績に反映されないのが少々残念ではありますが、関係者の皆様のご理解、

JSAF 広報

委員会 委員長: 柳澤康信 副: 中里英一

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
J-Sailing刊行	3月		編集・印刷・製版・発送の各協力会社にもいただき、ほぼ前年にならぬ金額で実施。
ホームページ	1回		内容は2018年度のディンギー・兼洋・ウィンドサーフィン競技、またJSAF普及・社会事業の活動年鑑としてまとめた。
	通期		リニューアル改訂し、4年が経過。以下を基本方針として運営。 ・「見やすい」、「わかりやすい」、「楽しい」、「役に立つ」、ツールとする ・ホームページを核にして、会員とのセーリング・コミュニティ強化を図る ・セーリングに関心を持つ一般人にも役立つ情報提供を図る
			各委員会・水域からのリクエストも増加、昨年度に増して活用される環境になってきた。 特にオリビック準備委員会、オリビック強化委員会への支援は十分に果たせたものと考えている。 また、「まずは体験」は定期的に更新、セーリングに関心を持つ一般人に「きっかけ」を提供してきた。
			2018年7月にオリビック強化委員会のHPが悪意を持ったハッキングの攻撃を受ける。 上記インシデント発生から内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)の指導を受けつつ、継続してセキュリティ対策に取り組んでいる。 現状、使用中の各サーバーのリスク評価作業中。また使用中の各団体に対し、ログイン・パスワードの更新を行った。
			2019年度の課題としては以下、 ・ホームページの改訂 準備委員会は各委員会からバナー掲載の要望が増えてきたことにより、ホームページが混然としてきた。 ワールドカップ・オリビック関係ははじめ、各委員会・水域のページに混乱なく誘導できるよう、デザインの改訂を行う。 またスマートフォンやiPadなど、ユーザーの閲覧環境の変化に対応できるよう、準備を進める ・JSAF収入への貢献 現状は誌面J-SAILING刊行減少を補完する意図でのバナー広告の掲載だけであるが、メールマガジンなどメニューの拡充(総務委員会とも協議し会員メールアドレスの利用を図る) ・コンテンツの準備・手配の一層の拡充 恒常的に新しいコンテンツをアップしていかないと、読者(会員)からはサービスの低下とみなされる ・まずは体験コンテンツは充実させてきた。一般向けにアプローチを回り、セーリングに引き込む活動を並行していく。 ・セキュリティ対策の強化。NISCでも2020五輪への関心が高まるに比例して、各競技団体へのサーバー攻撃も増加すると予測している。 NISCの指導を仰ぎながら、一層強化体制を構築する。
プレ国体	9月	茨城リハーサル国体	総務部副部長として広報対応。県連・ボランティアとの顔合わせ、ローカルメディアとの挨拶 滞りなく完了。
国体	10月	愛媛国体	2019年度の国体本番にむけて布石となった。 総務部副部長として対応。 各レースのストリーミング中継を福井県セーリング連盟・地元業者と協業して実施。 一方で特設会場・会場・その他随時取材リアルタイムに競技中継を行い、一般来場者からも好評を得た。 一方で報道陣と運営側の施設事故を誘発してしまった。 民間主催のセーリングイベントに積極的参加。事務局・普及・環境・事業開発と共同でブース展開。 2019年度も継続して積極的に取り組む予定。 ・海とつながるプロジェクトへの協力 ホームページを制作し、告知協力。またポスターや横断幕などの制作も担当。2019年度も普及委員会に協力する。 報道への協力体制構築 2019年度以降も報道関係者との接点機会を設け、セーリングに共感をもってくれるプレス担当者を増やすべく回る
インターナショナルポर्टショー	3月	横浜	
その他事業	通期		

<備考:反省点等>

JSAF 環境

委員会 委員長: 芝田 兼行

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
環境キャンペーン	通年	各レース会場	補助金総額1,285,000円を支援することができました。フラッグ等の配布について問題が発生したため、今後の防止策に課題を各レースやイベントにて配布を行い、15000部を配布することができました。2号目の作成は着手のみで終わっているため次年度にて完成を目指します。
環境啓蒙ブックレット	通年	各イベント・レース会場	今年行われている国体でのエコバックのワークショップは今年度まで台風により開催できませんでした。ペットボトルホルダーを作成し、各イベントで配布することができました。スポンサーの拡大については成果を上げることができませんでした。現在ご協力頂いているJFE様については今年度も引き続きご支援いただきました。新規スポンサー企業様の拡大は成果を上げることができませんでした。
環境啓蒙保全活動	通年	各会場	ウェブの活用は十分といえませんでした。
スポンサー対応策	4.5月	スポンサー企業様への報告	
ウェブ活用			

<備考:反省点等>

JSAF レディース

委員会 委員長: 富田 三和子 副: 長田 美香子 神代 幸介

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
レディース委員会	平成30年	岸記念体育会館	・第1回レディース委員会は8名出席 ・30年度年間事業計画について、東京2020に向けての方向性を確認した。
第1回	5月7日(月)	事務局	・第2回は福井国体の期間に行ったので、全国の委員8名が集まり、各地の委員を中心とした女子のネットワーク作りの確認をした。
第2回	9月30日(日)	福井県 城山荘	・今年度初めて行方情報交換会について、活発な意見が出された。次年度は更に多くの委員が参加するようにしたい。
第3回	平成30年	事務局	・今年度年間反省、次年度に向けての計画を話し合った。次年度は3月15日(日)に開催したい。
チャイルドルーム (全日本470級選手権大会)	平成30年 8月20日(月)~ 26日(日)	神奈川県 神奈川県 藤沢市 江の島ヨットハーバー 2階メモリアルルーム	・全日本470級選手権大会でチャイルドルームを設置、傷害保険に加入。 ・延べ24人が利用した。選手・運営・指導者・観戦者の子どもの利用があった。 ・運営と受付はレディース委員が行うのだが、平日の人材確保が大変であった。 ・セーリングワールドカップ江の島大会でチャイルドルームを設置、傷害保険に加入。 ・延べ51人が利用した。選手・運営・観戦者の子どもの利用であった。 ・フランス、イギリス、ポーランドのお子さんもお預かりした。今後は国際大会時には受付と保育士共に英語の堪能なスタッフが必要。 ・チャイルドルームの場所が狭かったので、急遽保育士を増員し、テント等の場所を預かった。 ・次年度はもう少し広い場所を確保していただけるよう、実行委員会に要請していきたい。 ・チャイルドルームの場所が狭かったので、急遽保育士を増員し、テント等の場所を預かった。 ・延べ28人が利用した。選手と運営スタッフ・観戦者の子どもの利用であった。 ・保育士は、地元保育ボランティアに3大会続けてお願いした。次年度はさらに日数が増すので、早い時期に日程を知らせ人員確保をしていきたい。
チャイルドルーム (ワールドカップ江の島大会)	平成30年 9月9日(日)~ 16日(土)	神奈川県 神奈川県 藤沢市 江の島ヨットハーバー 本部前プレハブ	・福井しあわせ元気国体セーリング競技に於いて、チャイルドルームを設置。傷害保険に加入。延べ利用者数26名。 ・レディース委員会3名と地元スタッフ2名で実施した。地元高校生ボランティアの参加も有り難かった。 ・今後開催される国体関係者の方々から御覧にいられたので、場所の確保と地元保育士について依頼をした。 ・台風のため大会日程が変更となり、チャイルドルームの実施は3日間となった。 ・利用者のほとんどはママさんセーラーが増え、選手が長く国体に参加できるようになったようだ。
チャイルドルーム (江の島オリンピックウィーク)	平成30年 9月21日(木)~ 24日(日)	神奈川県 神奈川県 藤沢市 江の島ヨットハーバー 2階メモリアルルーム	・いきいき茨城国体セーリング競技リハーサル大会に於いてチャイルドルームを設置。延べ利用者数21名 傷害保険に加入。 ・運営・観戦者の子どもの利用があった。 ・次年度は地元保育士の参加を、ぜひお願いしていく。
チャイルドルーム (福井国体)	平成30年 9月29日(土)~ 10月3日(水)	福井県 若狭和田マリナー 特設会場 管理棟1階	
チャイルドルーム (茨城リハーサル国体)	平成30年 10月25日(木)~ 10月28日(日)	茨城県阿見町霞ヶ浦 セーリング特設会場 本部B棟	

レディース委員会主催 情報交換会	平成30年 11月10日(土)	岸記念体育会館 スポーツマンクラブ	・加盟団体25名が参加。「女性セーリング界の現状や課題」について自由に討議した。 ・欠席の団体からも事前に資料が送られた。初対面同士の方も多かったが自然な議論が聞かれ、日頃から漠然と抱いていた ・それぞれの思いがみんなでき共有できる共通の課題であることが再認識できた。初の試みであったが、次回もぜひという声も ・見えてきた課題に対しての今後の展望については十分に意見交換をする時間がなかったため、今後の課題としたい。 ・事前に実行委員会を2回開催した。広報委員会・総務委員会・事業開発委員会・事務局との仕事分担をした。 ・次年度は招待者の人数がさらに増える予定されるので、第1回の実行委員会を11月中に開催する予定。 ・中川副会長、橋田理事、富田の3名で参加。「女性役員環境について」をテーマにしたグループワークが行われた。 ・パネルディスカッションには、JOC理事・女性スポーツ専門部会長の山口香氏・日本プロサッカーリーグ参与村松邦子氏・日本 ・長田、富田の2名で参加。 ・前日に行われた「スポーツ団体女性役員カンファレンス」について山口香氏・山口理恵子氏から報告がされた後に、参加者 から 報告があった。 ・研修内容が充実しているため、次年度には日程を早く知り委員に呼びかけ、多数で参加していきたい。
<備考:反省点等>			

JSAF アスリート 委員会 委員長: 関 一人 副: 重 由美子

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
WSアスリート委員会への対応	4月末から6月		メール等での対応が主。オリンピック控え、日本への期待度大。 次年度は世界選手権、フレオリンピック、ワールドカップも控えており 動きが活発になることも想定される。
ワールドカップ江ノ島大会開催時の VIPアテンド対応	9月		江ノ島ワールドカップ開催にあたり、WSより日本人VIP(スポンサー)に対し、 競技説明やアテンドとして対応。 各社とも非常に興味を持って頂くことが出来た感がある。 本年度はまた未定だが、継続して行うことが肝要と考えているので、 本年度も積極的に関わっていく。
ナショナルチームからの 意見の吸い上げ	随時		選手が考えている事、JSAFとして対応していきたいことを関係者へ伝える、 橋渡し役としての対応

<備考:反省点等>
様々な種目の選手から意見を頂き、委員会としての活動としたい希望もあるが、国内大会からの意見の吸い上げ数が乏しい。
具体的に求めている事、どんなサポートをJSAFに求めているか等、実直な意見を吸い上げられるシステムを作る必要がある。
また、選手が主体的に動く場を作り、連盟、選手がWIN WIN になれるような場を作りたいと考えている

JSAF ルール 委員会 委員長: 増田 開 副: 大村 雅一、前園 昇、加藤 圭二

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. ルール関連資料の邦訳・発行	4月 4月 3月 都度	— — — —	・ウィンドサーフィン競技規則2017-2020の日本語訳(ウィンド向けルールブック)の日本語訳を発行、電子版の販売を開始し ・前年度製本・発行したケースブック2017-2020版(300冊)を完売し、100冊を増刷した。なお、製本版に加えて電子版64本も販 ・メダリレース等のアンパイア制フリーレースで用いられる試行規則(アテンダムQ)の最新版を日本語訳してWEBで公開し ・World Sailing Q&Aサービスを日本語訳してWEBで公開した。 ・2017-2020版World Sailing ジャッジ・マニュアルの日本語訳を発行、販売開始した。
2. ジャッジ・アンパイア関連書の邦訳・発	3月	—	・2017-2020版World Sailing ジャッジ・マニュアルの日本語訳を発行、販売開始した。
3. IJ/IUの育成	9月/9月/9月 7月 2月/2月	神奈川/神奈川/ウラジオストック 東京 鹿児島/東京	・海外大会と国内で開催された国際大会やWorld Sailingの講習へ、国際ジャッジ/アンパイア(IJ/IU)候補者(3回、延べ7名)を 派遣し、IJ/IU認定に必要な実技・経験の修得を支援した。 ・国際アンパイア(IU)申請希望者1名の審査を行い、World Sailingに推薦した。11月のWorld Sailing年次総会でこの者のIU資 格が認定され、日本人IUは2名となった。 ・2回のA級ジャッジ(NJ-A)認定講習・試験を実施し、合計10名の受験者があり、うち1名を新たにNJ-Aに認定した。年度末時 点でNJ-Aは252名となった。
4. ジャッジ・アンパイア講習会の開催	12月 2-3月	神奈川 福岡/兵庫/東京/札幌/愛知/広 島	・2回のアンパイア(NU)認定講習・試験を実施し、合計4名の受験者のうち2名がNUに認定された。認定に至らなかった2名 は、今後実施される海上実技試験に合格すればNUに認定される。年度末時点でNUは25名。 ・A級ジャッジリニックを全国各地6か所で合計80名の受講者を得て開催、ジャッジのスキルアップに貢献した。開催地の希望 を受けて新年度4月にも追加で2回(愛媛と京都)の開催を予定している。
5. B級ジャッジ認定のための付帯業務	都度	—	・B級ジャッジ(NJ-B)の認定講習・試験(19箇所)を実施した各加盟団体・特別加盟団体から送付された実施報告に基づき認 定業務および認定証発行作業を実施した。約160名が新たに認定され、年度末時点でB級ジャッジは965名となった。
6. JSAF主催大会等へのジャッジ・アンパ イア派遣	9月/10月	福井/茨城	・国体リハーサル大会、国体にジャッジを派遣、開催地のジャッジとの交流を通じ全国のジャッジレベルの向上にも貢献した。
7. 選手・指導者向けルール講習会の開催	1-3月	全国各地	・全国各地で17回開催、合計927名の受講者を得て、スポーツマンシップやルール理解の普及に貢献した。今年度は新たに、 外洋向け(2回)とウインド向け(1回)の講習も実施した。開催地の希望を受けて新年度5月にも追加で1回(京都)の開催を予 ・新たにアンパイア制レースの開催を計画する主催者を対象に、チームアンパイアのそのの旅費補助を希望する主催団体を 募った。その結果、1件の申請があり、チームアンパイアを派遣し、新たなアンパイア制の大会の立ち上げに貢献した。
8. チームレース・アンパイア制フリーレ ースの普及	7月	宮城	・前年度発行の電子版ルールブックに加え、当初計画通り、ウィンドサーフィン競技規則2017-2020(ウィンド向けルールブ ック)の電子版を編集・発行した。 ・講習会などの機会も活用するなどして、ルールブック(製本版:約280冊、電子版:約100本)を追加販売した。
9. ルールブックの普及	4月 都度	— —	

<備考:反省点等>
・事業1、事業9: 従来の製本だけの販売形態では収支や在庫リスクの観点から難しかったウィンド版ルールブック(電子版のみ)を発行することができた。電子版の取扱を始めたことは今後JSAF会員へのサービス向上とルールの普及
・事業1、事業9: 電子書籍(ルールブック、ケースブック)の販路として利用していたDL Market社に対する不正アクセス事象が発生し、販売サービスの一時停止を余儀なくされた。サイバーセキュリティ対策を重視しているような大手の代
・事業4: NU-Aの合格率が、前年度50%に対し、今年度は10%と極めて低かった。原因の分析に基づき改善策を講じる必要があると考えている。

JSAF レース 委員会 委員長: 大庭秀夫、副委員長: 長谷川津、大原博實

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. ARO/CRO セミナー	6月 1回 12月 1回	神奈川 青森	37名が参加し、ARO22名、CRO15名を認定した。 11名が参加し、ARO7名、CRO4名を認定した。
2. 江の島レースマネジメントクリニック	2月 2回 5月 1回 6月 2回 7月 1回 8月 3回 12月 1回 2月 2回 3月 2回	北海道 兵庫 神奈川 神奈川 神奈川 神奈川 神奈川 神奈川 神奈川	19名が参加し、ARO15名、CRO4名を認定した。 2020東京に向けた運営スキルアップの講習に2名が参加した。 2020東京に向けた運営スキルアップの講習に2回、20名が参加した。 2020東京に向けた運営スキルアップの講習に14名が参加した。 2020東京に向けた運営スキルアップの講習に3回、25名が参加した。 2020東京に向けた運営スキルアップの講習に14名が参加した。 2020東京に向けた運営スキルアップの講習に2回、36名が参加した。 2020東京に向けた運営スキルアップの講習に2回、44名が参加した。
3. IROクリニック	4月	神奈川	World Sailingから講師を招聘し、2020東京の海上運営メンバーのスキルアップを 目的とした講習に32名が参加した。
4. レース委員会全国会議開催	12月、3月	広島 東京	全国のレース委員を対象に全国会議を年2回開催
5. 外洋合同委員会	2月	福岡	全国外洋の合同委員を対象に全国会議を年1回開催
6. 全国団体長会議	9月、1月	東京	全国水域代表者が集まりルールや問題点の情報交換を行う
7. JSAF共同主催・公認・後援審査	4月~3月	広島	年間通して申請書類のチェックを行う
8. 国民体育大会・プレ国体へのレース委 員の派遣	9月、10月	福井 茨城	福井国体・茨城プレ国体への委員の派遣
9. 各国際大会へのレース委員の派遣	9月	神奈川	Sailing Worldcup江の島大会への委員の派遣 ASAF江の島オリンピックウィークへの委員の派遣

<備考:反省点等>
2018年度開催した江の島で開催された国際レースを通じ、改めて相模湾での海上運営メンバーのスキルアップの必要性を認識した。
そこで、海上運営メンバー育成計画を変更し、実際のレース海面で様々な海上気象の経験値を積むためのプログラムを来年度以降実施していく。

JSAF ODC計測 委員会 委員長: 中村 和哉 副: 東島 和幸、百済 信彦

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
公式計測員セミナー、およびクリニック	通年	全国8箇所	別紙「2018年度 計測セミナー・クリニック報告」の通り
会議等々			
JSAF会員管理システムの資格管理会議	2018年3月24日(土)	JSAF事務局	JSAF HP会員閲覧への公式計測員資格掲載について協議した。
茨城リハーサル計測部支援	2018年9月15日(土)	茨城リハーサル実行委員会	現地に計測機材準備状況を確認、併せてスケジュールの確認を行った。
ODC計測委員会定例会議	2019年3月9日(土)	パシフィック横浜 展示ホール 講堂	別紙「第14回会議スケジュール」の通り
JSAF加盟クラス協会計測代表者 連絡会	2019年3月10日(日)	パシフィック横浜 展示ホール 講堂	別紙「JSAF加盟クラス協会計測代表者 連絡会議2019のご案内」の通り

<備考:反省点等>
1) ERS更新講習会を一部クラス計測員更新認定講習会と併催し、クラス別加盟団体への委託事業も含め全国6か所で開催した。
2) 事業名: 東京五輪に向けた計測ボランティア養成講習 および、事業名: Measurer Clinicの開催が諸般の事情で実施不実行となった。関係部署との調整不足であり反省している。
3) JSAF加盟クラス協会計測代表者 連絡会議を開催、JSAF艇種別各協会との公式計測員制度および、計測員資質向上等々の問題点を共有し、連携して解決することとした。

反省、今後の課題
1) 次年度に控えた各クラス公式計測員資格更新について、一律の更新要件を定めることは各クラスの現状にそぐわないケースがあり
各クラスの求められる大会計測状況にマッチした公式計測員制度の見直しが必要であり、今後各クラス協会と協議を進める予定である。
2) デッキキーにおいては、ワンメイク艇が主流であり、選手のクラス規則、装備についての認識が薄い傾向にある。
各クラス協会と協力し、公正な競技を実施するための必要な要件であることの普及活動に努めたい。
3) 今年度より委員会活動活性化のために小委員会を設けたが、十分に機能しなかった。3月の定例会議で改善策を検討し問題点を各位で共有することとした。

JSAF 普及指導 委員会 委員長: 川北達也 副: 小阪康司、坂口英章

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
実行計画1.セーリングスポーツの発展進行と安全確保 (1)コース、次世代セーリングの更なる発展 1) JSAF新指導者育成体系構築<新規>			コース、次世代セーリングの更なる発展については、質の高い指導者を継続的に拡大することで、充分貢献できたと思うが、障がい者セーリングの普及発展については、まだまだ道半ばであり、貢献には至っていない。
・JSAF指導者育成体系策定	6/22、7/20、11/1	福岡、福岡、東京	World Sailingの指導者育成標準とJSPの指導者養成の新体系をベースに、平成30年2月にジュニアからTopアスリートの指導者に参集いただき開催した「指導者のあるべき姿検討会」にて議論した、安全や指導の標準化を取り込み、個別作業に加え、3回のキーマン合宿でセーリング領域で指導者に備えるべきスキル、資質を整理し、コーチ1からコーチIVまで段階的に成長できるように体系化した。9月/12月の理事会に上程し、承認された。但し、次年度以降に策定を計画している付帯的な資格や制度について、継続して策定する必要がある。また、次年度に向け、指導者行動指針や資格規定等を策定する必要がある。
・専門科目講習会の改定	~2019年3月	-	JSAF指導者育成体系に基づき、コーチ1からIVまでに習得するスキル、資質を教育体系に落とし、JSPが行う共通科目との整合をとり、段階的に成長できるカリキュラムに構築し実施した。また、2019年度に予定していたコーチIII実施コースの骨子を年度内に完成。
2) 次世代公認指導者の養成<継続>			今年度は公認コーチ講習会の実施のみであるが、新規に25名の応募があり、過年度受講者を加えて前期21名、後期20名の参加で講習会を実施。開催場所については、応募者の地域を踏まえて設定しており、交通の便という上でも、好評を得た。また、前期講習会は、アクティブラーニングの実態として、NHKニュースにも放映された。2019年度はコーチIIIを東西に分けて2回の実施を予定し、仮募集を行い、74名の応募。次年度はJSPから2コース実施の承認を得たので、受講者の正式登録を3月末に完了。
・公認指導者養成講習会の開催(日体協委託事業)	前期:11月16~18日 後期:2月9~11日	前期:福岡 後期:大阪	公認指導者講習会を県体育協会と連携して主催する加盟団体(都道府県連)に対して、カリキュラム作成、講師斡旋や講師派遣などを予定していたが、今年度の開催団体はなかった。来年度以降は、コーチIの教材と講師支援を計画予定。期中に、JSPが共通科目講師養成を発表し、JSAFから2名が受講し、コーチデベロッパーとして認定された。来年度は、2名合わせて共通科目の過半数に講師として参加予定。
・公認指導員専門科目講習会支援	都度	都度	
3) 公認指導者の継続的レベルアップ			
・指導者講師研修会の開催(日体協助成事業)<新規>	1月19~20日	東京夢の島マリナー	当初の予定では、コーチI/IIのコースプログラム及び教材の展開を予定していたが、策定したコーチIII講習カリキュラムで海上講習パートを指導するコーチデベロッパーを養成するため、上級コーチ資格保持者を対象にした講習会に変更した。来年度についても、現場で活動するコーチに、コーチデベロッパーとしての活動をする場の提供と、現場指導の実態を踏まえた講習にするための検討会を開催した。また、その後は各都道府県連に対してコーチIIのコースプログラム及び教材の展開を公認コーチ講習会開催時に、近隣県から義務研修として受講者を募集し、1日目の参加により、講習会内容の理解を図った。また、JSPが今年度に開催した「グッドコーチング」講習を、対象者に案内した。加盟団体からの義務研修認定要請はなかった。関連委員会との協議が進み、義務研修登録に関するトラブルが激減し、仕組みの定着ができてきている。来年度に向けては、義務研修の名称が、「更新研修」となるので、更に充実した講習ができるように、指導者更新教材の提供半年に1回のサイクルで、セーリングの公認指導者資格保有者をJSPのDBから抽出し、義務研修未受講者や更新対象者にワーニングメールを送付。
・義務研修の受講促進<継続>	11月16~18日 2月9~11日	福岡 大阪	
・指導者リストの整備<継続>	4月、9月		
4) セーラー育成システムの標準化			
・育成に必要な項目を標準化したガイドの作成と展開<新規>	2019年3月		海外の複数の書籍を参考に、初心者セーラーが、セーリングスキルを最短期間で取得するために、何をどのような手順で育成したらよいかを記載したJSAF標準ガイドを作成し、展開した。また、この一部を学校運動部のガイドとして来年度4月に公式サイトにて展開する。今後は、本ガイド「セーリングテキスト」を冊子化したり、写真や映像を追加することで、活用度を上げる。
・ジュニア・ユース育成指導者が活用できる教材の作成と展開<継続>	都度		「RYA Start Sailing J」、「RYA Coaching Manual」などの海外の書籍の翻訳を中心に、指導者に展開。
・全国のセーリングスクールの調査、および認定基準の策定<新規>			今後は、国内で翻訳する書籍の用語の標準化が課題
実行計画1.セーリングスポーツの発展進行と安全確保			リソース不足で未実施 来年度に再設定
5) JSAF安全基準の策定、展開			
・セーリングセンター設備、ライフジャケット着用、指導者の海上での救急救命			リソース不足で未実施 来年度に再設定
・事故発生時の報告書提出の仕組み構築	2019年2月	理事会	総務、医事科学、レース、外洋安全の各委員会と協業にて、JSAFとして事故発生時に報告書を出し、事故分析を行った後に、加盟団体/特別加盟団体やその指導者の向けに、再発防止の情報提供を行う仕組みを策定
6) 安全確保のキャンペーンおよび情報展開<新規>			
・ライフジャケット/キルコードの使用徹底	前期:11月16~18日 後期:2月9~11日	前期:福岡 後期:大阪	桜マークのライフジャケットに関する情報や、キルコードの使い方について、指導者に向けて、講習会等場で周知徹底は図っているが、まだまだ十分ではない。JSAFの安全基準として、展開が必要。
・練習環境の安全徹底	前期:11月16~18日 後期:2月9~11日	前期:福岡 後期:大阪	各々の練習海面での安全基準チェックリストの作成を指導者に向けて、講習会等場で周知徹底は図っているが、まだまだ十分ではない。JSAFの安全基準として、展開が必要。
7) バッジテストシステムの再構築<新規>			
・バッジテスト検定制度改定案の策定	2018年7月		ジュニアユース世代の初心者が楽しみながら、チャレンジできる初級取得の検討を中心とした検定制度改定案の検討は開始したものの、策定には至らなかった。ただし、都道府県連にアンケートを依頼し、バッジテストに9問以上正解している方々のリストを作成することで現状把握を実施。また、提出されている実施報告書の集計を実施。47都道府県に39万64回で64回実施。初級574名、中級248名、計822名が合格。収集したデータに基づき、分析をした結果、安全の担保に対して懸念点を把握できた。この検討するリソースが不足して、未実施
・バッジテスト上級の改定			
・強風域に対する大会参加資格基準			
実行計画2.広く普及を啓発し、セーリング界の裾野を広げる			
8) ポートショウをきっかけにしたセーリング実体験者の誘導<継続>			
・「海と日本プロジェクト」企画申請と参加団体実施支援(日本財団委託事業)	2019年3月7-10日	パシフィック横浜	昨年度に引き続き、未体験の子供たちを誘導するために、委員会横断のタスクチームにて、小中学校への勧誘アプローチを実施。今年は、横浜市、藤沢市、鎌倉市、葉山町、江東区、千葉市、船橋市の小中学校の小学生にポスターだけでなく、チラシ6万枚の配布を実現。ブースでは、ゆるキャラの記念撮影に加え、実物メダルの展示や、レブリカによるメダル授与体験、擬似乗船写真撮影、動く船台による体験乗船紹介など、数多くのアトラクションを準備。結果として、昨年度の2.5倍の2500名がブースに来場し、子供たちで賑わった。しかしながら、チケットプレゼントを利用した人数は100名ほどに止まり、更なるアピールや勧誘案
9) 加盟団体、特別加盟団体の普及活動支援<継続>			
・「海と日本プロジェクト」企画申請と参加団体実施支援(日本財団委託事業)	2019年6月-8月	千葉、東京、神奈川、石川、大阪、和歌山、兵庫、鳥取、山口、香川、福岡	今年度は、全国11団体でイベントを開催。6000人を超える参加者により、海の魅力を訴求でき、各地で盛り上がりを見せた。ただし、イベントが年1回の単発で終わっており、来場者を継続したセーリングファンまでに仕立てる必要があり、ファンそのものが本当に拡大しているのかを測る指標がない。セーリングスポーツを開始する更なる仕掛けの準備が必要。来年度は、日本財団の要請に基づき、開催場所を減らし、安全の意識を高めるなどの仕掛けを実施予定。
実行計画3.セーリング界を支える連盟組織の強化			
10) JSAF国際人材育成制度(仮称)策定<新規>			検討するリソースが不足して、未実施
11) JSAF国際人材育成制度に基づく、人材発掘と育成			スポーツ庁の制度には応募者が出ず、未実施。来年度に再設定。 一方で、JOC国際人養成アカデミーに、JSAFから初めて1名の推薦を行い、審査の結果、受講させることができた。3日間X8週間の養成コースではあるが、素晴らしい講師陣の講習は勿論、他競技団体との人脈を構築することができ、受講者の問題意識も非常に高めることができた。来年度は2名の応募があり推薦したが、4月末までに合否が判る予定。 次年度に向けて、もっと次世代のメンバーを対象に、計画的に国際人養成を順番に行っていく必要と、単発の募集には限界がある。JSAFの中で、どのような方針を打ち出すべきかを含めて、国際委員会を中心とした関係委員化や理事会との協議が応募者が出ず、未実施。来年度に再設定。 課題は、10)と同様。 現時点で、担当主幹についてオリンピック強化委員会と調整についておらず、未実施。
12) World Sailing/ASAでのJSAF地位向上<継続>			
・World Sailingデベロップメント会議参加	-	-	今年度は開催がなかった。(急遽前年度3月に日程変更された。)
・国際委員会展開のSFT事業への支援	ベトナム	3月	来年度は、予算削減に対応するために、実施しない。 セーリングスポーツ発展途上の国に対して、子供たちを育成してセーリング普及発展に貢献するSFT事業として、国際委員会からコーチ選定の委託を受け、本人や所属企業との合意/調整を行った結果、ベトナムに2名のコーチが派遣された。来年度
13) 加盟団体、特別加盟団体参加の指導者への情報展開強化<継続>			
・委員会ページの改定	-	-	広報委員会との打ち合わせを実施して、進め方の方向性は合意できたが、具体的コンテンツの製作段階で、担当者の業務都合による工数不足に見舞われ、完成に至らず。 来年度、早々に立ち上げられるように、再編中。
実行計画3.セーリング界を支える連盟組織の強化			
14) JSAF実施事業の質的向上と委員会ノウハウ交流<継続>			
・他委員会との協業事業の拡大	都度	都度	指導者育成体系策定、事故報告書義務化、ポートショウ、海と日本プロジェクト、海その愛推進委員会を始めとした様々な事業において、他委員会と協業することで、ノウハウ交流と質の向上が図れた。
・その他	都度	都度	委員会メンバーが様々な外部研修に参加し、他競技団体を含めた数多くのスポーツマンと出会い、大きな刺激を受けながら、
<備考:反省点等>			
<ul style="list-style-type: none"> ・事業拡大に伴い、メンバーの拡充を図ったつもりであったが、メンバー各自の仕事優先を優先せざるをえず、委員会事業に割ける時間が少ない者がいた。 ・実施すべき事業が多くある中で、活動している委員会メンバーの負担が大きくなっている。 ・委員長として、この点を踏まえて、事業の優先順位を明確にするとともに、更なるメンバーの拡充を図りたい。 			

JSAF 国際 委員会 委員長: 望月宣武 副: 小林昇 柴沼克己

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. 国際会議への代表者・委員の派遣 (1) WSミッドイヤーミーティング	5月12日~15日	ロンドン	出席者 河野博文、望月宣武、大谷たかを ① 2024 オリンピック種目決定(日本はダブルハンド・ミックスとオフショア・ミックスを推したが、儀慶(オフショア)が選ばれ、シングルハンド・ミックスが選ばれた。470はミックスで残留) ② 2020TOKYOの準備状況を報告
(2) WS年次総会、ORC年次総会	10月27日~11月3日	サラソタ(フロリダ)	出席者 河野博文、望月宣武、小林昇、柴沼克己、増田剛、須藤正和、斎藤愛子、堀川那子 ① 2024開催国フランスの圧力で、WS執行部は5月に決まった種目を変更する提案を進行採決し 5月に決まっていたシングルハンド・ミックスの代わりにオフショア・ミックスが選ばれた ② WSのガバナンスの悪化(カウシルで決まったことがすぐに変更になる)が明確になり、今後論議され、見直されることになりそう ③7月にオランダで開催されたORCとIRCの合同世界選手権が、2020にもNYで開催される。
(3) ASAF年次総会	9月1日	ジャカルタ	出席者 荒川博人 ① アジア大会に併せて開催したことからWSキム・アンダーセン会長が冒頭に挨拶。 ② インドネシアでのアジア大会セーリング成功の立役者である大谷さくらにマラフ会長から感謝の辞。 ③ アジア各国でのセーリング普及にはコーチの育成、ジュニアの育成、実情にあったクラスの取り入れ、日本、中国、韓国、シンガポールがリーダーシップをとること、などが必要。 ④ ASAFが協力し、WS総会での決定にもっと影響力を与えるようにしたい。
2. SPORT FOR TOMORROW	3月5日~10日	ダナン(ベトナム)	ベトナムへのコーチ派遣事業を実施。数年前に大谷氏がベトナムにレジャー、OPを寄贈しており、そのフォローを兼ねた事業。ベトナムスポーツ庁、駐越日本大使館の協力を得て大成功であった。コーチは李東潤、渡邊哲雄、佐藤麻衣子、村田暁。艇の積載品をJSAFから寄贈。大変に感謝された。(アジアの多くの国でセーリング用品はロープでも入手困難)

3. その他			① 2020に向けて海外からの問い合わせ、要請などのサポート ② WSC EOW、470ワールド、レーザーワールドなど国際レース開催のサポート ③ レースオフィシャル育成のサポート ④ 2024オリンピック種目選定に際しての情報収集とロビイング ⑤ オフショア関連事項の情報収集と情報発信。
--------	--	--	---

<備考:反省点等>
 *普及指導委員会との協力体制を強化し、情報共有が進み、活動範囲が広がった。SFT事業実施には特に有効であった。
 *SFT事業がアジア各国から高く評価され、日本のプレゼンスがかなり上がった。

JSAF 医事科学 委員会 委員長: 山川雅之 副委員長: 米山正巳、岩淵隆

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
① 選手の健康管理、外傷予防に関する事項 i) 医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養師、トレーナーによる指導 ii) 相談、要望に対する対応 iii) 講習の実施			
② アンチドーピングに関する事項 i) ドーピング検査に対するNAとして参加 ii) 選手、コーチ、監督、指導者にアンチドーピングの指導・啓蒙 iii) スポーツファーマシストの育成 iv) アウトリーチ活動の推進			アンチドーピング小委員会を設立、業務移管(委員長: 中村仁也、副委員長: 金田光正)
③ 競技における救護に関する事項 救護体制の指導・助言	4月28日～5月12日 8月30日～9月1日 9月22日～24日 9月22日～24日 9月29日～10月7日 3月21日～23日	葉山 若洲 江の島 江の島 葉山 浜名湖	関東学生女子ヨット選手権大会および関東学生ヨット選手権大会(葉原、山川) 全日本学生ヨット個人選手権大会(葉原) ワールドカップ江の島2018(葉原、川副、山川) 江の島オリンピックウィーク(山川、葉原) 関東学生女子ヨット選手権大会および関東学生ヨット選手権大会(葉原、山川) YMFSセーリングチャレンジカップ(高橋正哲)
④ 安全の講習および公認コーチ講習に関する事項: 講師の派遣	H31年2月10日	大阪	日体協公認コーチ指導者講習会 江口: 科学的トレーニングコンディショニング 山川: 病気のけがへの対応とアンチドーピング
⑤ 海外派遣選手に対する医学的指導、医師、トレーナー等帯同に関する事項 相談・要望に対する対応			LINE、メールによる連絡体制構築: ほぼリアルタイムに複数の医師による怪我、病気の対応、アドバイスが行われている 薬割に対する相談もスポーツファーマシストが対応
6 公認スポーツドクター、公認スポーツデンティスト、公認スポーツファーマシスト、公認スポーツ栄養師、公認トレーナーに関する事項 i) 日本体育協会への推薦(養成講習会受講に対して) ii) 更新の手続き iii) その他			今年度養成講習会受講終了で5名公認スポーツドクター取得 今年度は応募なし 今年度は対象者なし 公認スポーツドクター養成講習会講師: 太田
<備考:反省点等> その他			i) 普及指導委員会、国体委員会、オリンピック強化委員会との連 ii) 東京オリンピック組織委員会への医療協力(AMSV: 山川) iii) ワールドセーリング医事委員会との連携
*ドーピング検査に対するNAとして参加	8月26日 8月26日 9月2日 9月24日 11月4日	江の島 福岡県小戸 若洲 江の島 鳥取県境港	全日本470選手権大会: 6団体 全日本スナイプ級選手権大会: 6団体 全日本学生ヨット個人選手権大会: 6団体 江の島オリンピックウィーク: 8団体 全日本レーザー級選手権大会: 6団体

JSAF 国体 委員会 委員長: 森 信和 副: 黒川 重男

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. 第73回国民体育大会福井国体の開催	9月30日～10月3日	福井県高浜町 若狭和田マリーナ	参加 559名、345艇 茨城県・山口県 皇居杯・福井県 イベント事業の開催: 見えるセーリング競技の実施(LIVE放送) スマホ・パソコンでセーリング競技中継を見ることができ好評であった。 チャイルドルームの設置 環境エコ事業(エコバック作り教室) 運営艇同士の衝突事故があり、安全対策を今後さらに検討しなければならない。
2. 茨城国体リハーサル大会の開催	10月26日～28日	茨城県阿見町 磯ヶ浦セーリング特設会場	第64回全日本実業団ヨット選手権大会 第20回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会 2018年全日本セーリング選手権大会 420級、ウィンドサーフィン、レーザー級、レーザーラジアル級
3. 第79回滋賀国体(平成36年) 開催地内定に係る中央競技団体正規視察	11月26日～27日	滋賀県大津市 滋賀県柳ヶ崎ヨットハーバー	滋賀県スポーツ局国体準備室、大津市市民スポーツ国体推進課、滋賀県セーリング連盟 施設が老朽化しているため再構築を検討する必要がある。 艇置場が狭小であるため検討する。
4. 国体セーリング競技研修会の開催	1月18日～19日	東京都夢の島マリーナ会議室	JSAF国体委員会主催により福井県、茨城県、鹿児島県、三重県、栃木県の行政関係者及び都道府県競技団体から国体開催の報告、準備状況についての研修会を実施 第73回福井国体の監督、選手の参加資格について審査を実施 年度登録証の発行及び管理 国体県名・県番号の取巻、収益分をJSAFへ納付
5. 国体参加資格審査 6. 国体ウィンドサーフィン級年度登録 7. 国体県名・県番号の取巻販売 8. 国体委員会会議	6月17日 9月30日 1月19日	(定例) 夢の島マリーナ会議室 (臨時) 福井国体宿泊会場 (臨時) 夢の島マリーナ会議室	福井国体、茨城国体リハ大会準備状況等 茨城国体実施要項、茨城国体・鹿児島国体リハ準備状況等 国体ウィンド規則、リハ大会の種目要望等

<備考:反省点等>
 ・国体セーリング競技研修会の開催は関係行政機関及び都道府県連との意見交換で成果が多く有意義な会議であり、毎年継続して開催する。
 ・中学3年生の参加については更に積極的に進め、ユースの競技力向上を図る。
 ・国体参加資格について各都道府県に周知徹底を図り、また「ふるさと制度」の活用を促し、参加者の増員を図る。
 ・セーリング競技を一般市民の方々に身近に感じてもらうためにTV観戦等で解説を行い「見えるセーリング・スポーツ」として継続して実施する。
 ・国体会場でのレディス委員会によるチャイルドルームを更に広め成年女子の参加を促していく。
 ・国体会場において、環境委員会によるエコバック教室、更には海をきれいにする活動を行う。
 ・リハーサル大会は、国体開催前に実施しないと参加艇数が少ない。
 ・運営艇の安全対策を周知徹底し、特に監視体制を確立する。

JSAF オリンピック強化 委員会 委員長: 斎藤 渉 副:

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
海外派遣・遠征・国内ワールド等	3-4月	スペイン	[主な大会と主な成績] プリンセスソフィア大会(3/30～4/7、スペイン・バルマ) [470女子] 1位 吉田愛・吉岡美穂 [470男子] 3位 磯崎哲也・高柳彬
	4月	フランス	ワールドカップ・イエール大会(4/22-29、フランス・イエール) [470女子] 3位 吉田愛・吉岡美穂 [470男子] 4位 磯崎哲也・高柳彬 49er FX 女子] 7位 波多江慶・板倉広佳 [RS:X級男子] 5位 高澤慎
	6月	フランス	WCファイナル・マルセイユ大会(6/5-10、フランス・マルセイユ) [470女子] 15位 吉田愛・吉岡美穂 [470男子] 13位 岡田幸樹・外園潤平 7位 磯崎哲也・高柳彬 8位 土居一斗・木村直矢
	6月	インドネシア	2018アジアセーリングチャンピオンシップ(6/19～25 インドネシア・ジャカルタ) [470女子] 11位 吉田愛・吉岡美穂 [470男子] 12位 磯崎哲也・高柳彬 [49er 級男子] 3位 古谷 信玄・八山 慎司 [レーザー級男子] 3位 瀬川和正 [OP級女子] 2位 北原 颯子 [OP級男子] 3位 池田 海人
	6月	アメリカ	2018ユースワールドチャンピオンシップ(7/14～21 アメリカ・コーバクリスティ) [レーザーラジアル級男子] 18位 鈴木 義弘
	7月	デンマーク	2018セーリングワールドチャンピオンシップ(7/30～8/12 デンマーク・オーフス) [470女子] 11位 吉田愛・吉岡美穂 [470男子] 12位 磯崎哲也・高柳彬
	8-9月	インドネシア	2018アジア大会(8/18～9/2 インドネシア・ジャカルタ) [470女子] 11位 吉田愛・吉岡美穂 [470男子] 11位 磯崎哲也・高柳彬 [49er 級男子] 1位 古谷 信玄・八山 慎司 [レーザーラジアル級女子] 1位 土居愛実 [レーザー級男子] 4位 瀬川和正 [RS:X級女子] 5位 小瀬真美

			[RS:X級男子]4位 富澤慎 [レーザー4.7級]5位 前田 海陽 13位 坂井 理紗 セーリングワールドカップ江の島大会(9/9~9/16 江の島) [470女子]2位 吉田愛・吉岡美帆 [470男子]1位 岡田泰孝・外間潤平 3位 高山大智・今村公彦 4位 土居一斗・木村直矢 7位 磯崎哲也・高柳彬
	9月	江の島	[49er 級男子]9位 高橋稜・小泉維吹 江の島オリンピックウイーク(9/21~9/24 江の島) [470級(男女合同)]1位 岡田泰孝・外間潤平 5位(女子1位) 吉田愛・吉岡美帆 6位 磯崎哲也・高柳彬
	9月	江の島	[レーザー級]13位 南里研二 5位 瀬川和正 [RS:X級女子]2位 太西富士子 [RS:X級男子]9位 富澤慎 [49erFX級女子]9位 原田小夜子・永松瀧瀬 [49er級男子]6位 古谷信玄・八山慎司 9位 高橋稜・小泉維吹 [ナクラ17男女混合]4位 村山仁美・渡部雄貴 7位 飯東潮吹・畑山絵里 10位 梶本和歌子・川田貴章
	10月	アルゼンチン	[フィン級男子]8位 國米 創 9位 藤村裕二 10位 佐藤嘉記 2018ユースオリンピック大会(10/6~18 アルゼンチン・ブエノスアイレス) [テクノ293プラス級男子]8位 池田拓海
	1月	アメリカ	セーリングワールドカップマイアミ大会(1/27~2/3 アメリカ・マイアミ) [470級女子]9位 吉田愛・吉岡美帆 [470級男子]3位 市野直毅・長谷川孝 10位 岡田泰孝・外間潤平
国内合宿			toto助成事業:水域8回、次世代29回、海外遠征20回、ユース派遣20回、合計80事業 その他、複数回の国内合宿、海外優秀ユース招聘事業を実施
ジュニアユースアカデミー			JSC事業として全国各地で16回実施し、次世代選手のシーマンシップの啓蒙が進んだ。
アンチドーピング			5大会において32検体について検査した。
競技会開催			SWC江の島大会、ハザワールド、江の島オリンピックウイークを実施した。

<備考:反省点等>
 オーフスワールドにおける470女子1位、同男子2位、アジア大会メダル4個など好成績を残すことができ、東京オリンピックに向けて良い成果が出た。
 ユース世代の海外派遣も多く行った結果、一部では好成績もあったが、全体としては世界レベルから見劣りしているため、今後の強化が重要である。

JSAF ジュニアアカデミー 委員会 委員長:中村 公俊 副:青山 義弘

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデミー事業を以下のとおり全16回実施した。			評価点 ・予定回数を全日程において事故なく無事に終了することができた。 ・沖縄から北海道まで全国規模で事業を展開することができた。 ・述べ600人を超える多くの参加者を集客することができた。 ・各クラブや水域の選手・指導者情報等を得ることができた。 ・各クラブや水域指導者とのパイプがより深まった。 ・シーマンシップの理解度が高まった。 ・アカデミー講師のコーチングスキルが年々向上している。 ・アカデミーコーチそれぞれのコーチングノウハウが集約されつつある。
第1回半田アカデミー	6月30日-7月1日	愛知県半田市	
第2回葉山アカデミー	7月7-8日	神奈川県葉山町	
第3回光アカデミー	7月7-8日	山口県光市	
第4回稲毛アカデミー	7月14日	千葉県千葉市	
第5回霞ヶ浦アカデミー	7月28-29日	茨城県土浦市	
第6回室蘭アカデミー	8月25-26日	北海道室蘭市	
第7回与那原アカデミー	9月1-2日	沖縄県与那原町	
第8回津アカデミー	9月8-9日	三重県津市	反省点 ・事業内容のマンネリ化が改善されていない。
第9回青森アカデミー	10月27-28日	青森県青森市	
第10回光アカデミー	12月8-9日	山口県光市	
第11回唐津アカデミー	12月22-23日	佐賀県唐津市	課題点 ・発信力のある委員会主導のコーチ研修会を現行のアカデミーに被せて実施する。 ・アカデミーコーチハンク内での情報共有化を今以上に推進し、より多くのアカデミーコーチを活用する。
第12回高松アカデミー	1月26-27日	香川県高松市	
第13回津アカデミー	2月2-3日	三重県津市	
第14回葉山アカデミー	3月9-10日	神奈川県葉山町	
第15回高松アカデミー	3月16-17日	香川県高松市	
第16回宜野湾アカデミー	3月16-17日	沖縄県宜野湾市	

JSAF キールポート強化 委員会 委員長:金子純代 副:石黒建太郎、久保田悟

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1.海外キールポートレガッタへの日本チーム出場支援 ・JSAFホームページでのレガッタ告知 ・海外キールポートレガッタへの日本代表チーム派遣 ＜FISUワールドユニバーシティチャンピオンズ＞	9月	フランス シェルブール	大学対抗&U25マッチレース選手権2018に優勝した九州大学チームが参加 代表出場選手は高崎神風(24歳・マツダ)、森俊介(24歳・JAL)、富田大貴(24歳・伊藤忠商事)、高山達矢(22歳・住友商事) 結果は結果は19チーム中4位
＜ユースマッチレーシングワールドチャンピオンズ＞	7月	イタリア レドロ湖	大学対抗&U25マッチレース選手権に準優勝した東京大学チーム(菅原雅史君)が参加 代出場選手:菅原雅史君22才(東京大学4年)岡田一樹22才(東京大学4年)、岩井俊樹22才(早稲田大学3年)、吉富愛21才(神戸大学1年) 結果は12チーム中9位
＜NYYCグローバルチームレースレガッタ＞	9月	米国 ニューポート	このレガッタは、2024年、2028年、オリンピック種目を目指してUSセーリングが力を入れている種目の一つ 代表選手は市川航平、藤井龍、富本貴文、小島広久、山本仁志、石山雄大、仲山崇、駒崎ナエコ 結果は12チーム中8位(シルバーフリート2位)
2. 大学対抗&U25マッチレース2019の開催支援 第8回となる25才以下セーラーによるマッチレース 優勝チームには2019年開催のユニバーシアード 選手権日本代表権を与える	3月1日~3日	愛知県 マリーナ東海	全国より11チームが参加。毎年、選手レベルがあがっている。冠スポンサー様からの特別協賛も頂き、 又いままでも同様キールポートオーナー、ヨットクラブが継続的に寄付をいただける様になりつつある。 各地方でキールポートでの練習会等設けて、デンギーからキールポートへの乗り換える場が広がった。 出場した上位チームを日本代表として海外遠征へ派遣し、若手セーラー達にフィードバックできている。
3. 伊藤園女子レースへ参加	11月3日	葉山マリーナヨットクラブ	葉山マリーナヨットクラブ、NTCのイベント協力
4. 2019NYCインビテーションカップ代表	3月		JSAFのHPで代表チームの募集を行い、2019年9月の大会にはエスメラルダチームが代表に決定

JSAF オリンピック準備 委員会 委員長:河野 博文 副:小山 泰彦 桑原 啓三

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
①人材の確保と養成 ・オリンピック大会運営委員(陸上) ・オリンピック競技運営(海上) ・ボランティア			組織委員会と協議を重ね「セーリング競技運営は大会運営を熟知したJSAF要員が不可欠」であることを確認。今後本番に向けた役割分担を詰める。 レース委員会主催のクリニックの補助金について、本年度は書類が揃わず失すという不手際があった。来期への反省である。又、学連の協力が不可欠 組織委員会のボランティア登録が始まったが、登録内容が開示されない為、再度準備委員会主導にて今年の大会参加を呼び掛けるべく準備を始めている。
②ワールドカップの開催	9月	江の島	国内2回目となるワールドカップがオリンピックベニュー江の島で開催された。 水族館での開会式や地元歓迎式典・イベントに加え、470級男女の銀・金メダルの獲得もあって、期間中2万人近い人が会場を訪れた。 一方狭い会場に多くの仮設施設の準備や、インフラ整備等に予想以上の経費が嵩み、当初予算を約1500万円オーバーする5600万円の支出を余儀なくされた。 世界選手権で470級女子が史上初の金メダルを獲得したのを機に、オリンピックまでの国内開催のワールドカップ、クラスワールドを対象に報奨金制度を立上げ記者発表を兼ねて六本木ヒルズで協賛各社と選手社行会を開催した。 選手たちのその後の活躍もあり今期すでに総額530万円に達しうれしい悲鳴。 風向風速計測システムの購入費等オリンピック強化委員会へ15百万円の他、広報委員会へ約100万円の支援金拠出。
③報奨金制度の設置	8月~		World Cupでの日本選手の活躍を受け、スポンサー対策もかねて読売新聞朝刊全国版に「日の丸セーラーズ」の1頁全面広告(800万円)を掲載 今期更にHAZUKIルーベ(本年度のみ)、AOKI、読売新聞を「日の丸セーラーズ」オフィシャルスポンサーとして獲得した。
④オリ強・広報への支援			
⑤新聞全面広告掲載	10月		
⑥日の丸セーラーズ協賛企業確保			

<備考:反省点等>
 オリンピック準備委員会の収支は、過去2年間収入が支出を上回っていたが、オリンピックを2年後に控えた今期はWorld Cupの追加支出など収入を大幅に上回る決算となった。残り2年となった日の丸セーラーズプロジェクトを選手強化と人材の育成に向けて有意義に活用し、「レガッタとしての何か」をJSAFに残すことが出来るよう他の委員会とも協議していきたい。

JSAF 外洋常任 委員会 委員長:馬場益弘 (事務局長)鈴木保夫

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1.外洋推進グループ内の会議開催 1)外洋加盟団体会長会議の開催	H30年9月29日 H30年1月27日	広島県呉市 東京:夢の島マリーナ	全国の外洋加盟団体が集い、外洋における課題や問題点の情報交換を行い意思疎通を図った。また、外洋専門委員会からの現状報告や活動方針を周知する中で、各団体の円滑な運営と会員へのサービス向上を図った。
2)外洋常任委員会の開催	H30年5月26日、6月16日、 9月1日、12月1日、H.31年 1月17日、2月22日	渋谷:岸体育館 新宿:トーヨーアサノ	外洋航海推進グループの本年度実施方針を確認し、課題の協議調整やワーキンググループ活動を通じ、外洋加盟団体との連携向上とグループ全体の活動を活性化させた。
3)外洋専門委員会合同会議の支援	H31年2月2・3日	福岡県福岡市	2日は専門委員会関係者が一堂に会し、各委員会からの報告と関係者の意見交換・質疑応答を行い、外洋全体が同じ情報を共有することで、今後の活動の円滑化を図るとともに、3日には各委員会が分科会や講習会を開催し、知識の向上や資格者の技術向上に努めた。
2.外洋艇登録の管理	周年		HPIにおいて登録艇情報の開示を継続して行うとともに、加盟団体の登録手続きや登録証発行に関して艇登録ワーキンググループによる検討をする中で、加盟団体からの要望等を調整しつつ、新しい会員管理システムとのリンクについても構築に協働し、今後の登録事務の効率化を推進した。
3.外洋に関する情報の発信	周年		外洋関係会議の議事録を全て公開し、会員に対してできる限り外洋航海推進グループの活動を明確にしたほか、各レースの情報等をHP上でOn Breezeも活用しながら情報を発信することで、広く活動をアピール出来た。
4.東京オリンピック2020応援事業の企画実施	周年		東京オリンピック2020を盛大ならしめるため、聖火リレーの海洋版とも言える外洋ヨットによる日本一周フラッグリレーを前年に引き続き実施し、オリンピックに対する関心の共有や気運の高揚を多くの人々に伝えることが出来た。
5.オリンピック・世界選手権への対応	H.30年12月以降		オリンピック・パリ大会からオプショナルレースが正式種目となる事が決定し、同時に2020年から毎年世界選手権が開催されることに対応するため、オリンピック外洋小委員会を設置し、対応可能な体制を整えた。
6.ジャパンカップの充実	周年		ジャパンカップ委員会の設置に尽力し実現した。一方で大会を盛大ならしめるべく開催基準を策定し挑んだが、誠に残念ながら参加艇数が基準に満たず中止を余儀なくされた。
<備考:反省点等> ジャパンカップの開催が出来なかったことから、状況分析が不十分だったことを反省し、今後の活動に活かしたい。			

JSAF 外洋計測 委員会 委員長 八木達郎

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
吉田委員長からの引継ぎ	5月	横浜	事業予算及び年間の会議のスケジュールの確認
JAPAN CUP 打合せ	7月	名古屋	H30年度のジャパンカップの内容と方針(結果は艇数を満たせずその後中止)
外洋計測委員会 会議	9月	横浜	「IRC」と「ORC」の両方の委員の出席する合同会議(意見の調整を行った)
団体会長会議	10月	広島	全国の団体会長の集まる会議(JSAFのレーティングに於ける方針の説明)
外洋合同会議	H31年2月	福岡	外洋の計測、安全、ルール、レース委員会の全国委員会(MNAとしての事業)
<備考:反省点等> その他重要な会議への参加もあつたが例えば同委員会でも遠方の場合旅費は必要			

JSAF IRC 委員会 委員長: 川合 紀行 副: 上阪 和功

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
IRC証書の発給管理	通年		証書発行枚数は325枚。(1月~12月末) 次年度も同数予想。
IRC ルールの管理・運用	通年		RORCとの連携・情報共有(和訳・発行・解釈)15名で構成される。 ルールオーソリティ
証書データの管理	通年		申告書・証書のチェック等、9名で構成される。 テクニカルコミッティー
計測機材の管理	通年		5トン・12トン・20トンの重量計3機種を保有して運用している。
計測技術の向上と維持、講習	通年		10名で構成される。 IRC計測技術委員会
国際会議(IRCコンGRESS)への参加	10月	アイルランド(ダブリン)	IRCレーティングオフィスの角氏が参加。ルール変更、各国からの報告を受けた。
IRC委員会準備検討会	11月	浦和	業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈等、合同委員会の準備を行った。
全国外洋合同委員会の参加	2月	福岡	IRC委員会報告、国際会議報告を行った。次回は函館の予定。
IRC計測セミナー	2月	福岡・浦和・関東	2年に1回の計測セミナーを行った。総勢33名の計測員が更新した。
<備考:反省点等>			

JSAF 外洋安全 委員会 委員長: 大坪明 副: 川合紀行

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
【基本活動】 1.委員会会議の実施 2.ホームページやフェイスブックでの広報			メールベースにてで問題検討。 委員会独自のホームページにて即時性を持った広報活動を実施。 フェイスブックでは公示に至るほどでは無い周辺情報などの案内、およびホームページの更新情報の掲載などでさらに即時性を高める広報活動を実施。
【外洋合同委員会会議】 1.外洋合同委員会会議の開催	2019年2月2日	福岡(福岡市)	外洋安全委員会、外洋計測委員会、レース委員会外洋小委員会、ルール委員会外洋規則小委員会共同主催。今回は外洋安全委員会が幹事委員会。 加盟団体12団体、特別加盟団体4団体、出席総数60名。 外洋安全委員会からは、「通信」「外洋特別規定」「安全航行に向けて」「各団体へのお願い」を発表した。平成31年度は北海道で開催予定(ルール委員会外洋規則小委員会)が幹事。 今回、幹事委員会長として会議全体の取りまとめおよび外洋安全委員会発表のメインスピーカー予定であった委員長が会議当日になって家庭の事情で欠席となったが、委員会内で情報共有していたため、他の立場で出席だった副委員長を筆頭に会議の進行、サブスピーカーが代わりに発表をしたり、加盟団体の立場で出席の委員が必要資料を代わりに持参するなど対応出来たことは大変良かった。情報が委員長個人に集中しがちであるが、本事業に限らず、情報はなるべく共有し「金」として
【外洋特別規定普及】 1.外洋特別規定の翻訳および国内規定策定 2.外洋特別規定に関する質疑対応	通年		翻訳。国内規定の検討。誤訳や誤記の箇所を訂正。改訂版対応。さらに、現状限られたカテゴリーのみの翻訳であるが、次年度には全文翻訳版を発行すべく作業を開始。 メールを中心にユーザーからの質問に回答。各地方では、委員が直接質問などに対応。今後は、特に多い質問に関してQ&A方式でホームページに掲載することがユーザーの便益性、委員の負担軽減に繋がると思われる。 委員が各地域にて直接ユーザーに啓蒙活動を実施。全国全体では2月開催の外洋合同委員会会議にて運用の注意事項を今年度は実施無し。次年度は改訂年にあたるので派遣依頼の可能性あり。 今年度は実施無し。次年度は改訂年にあたるので実施予定。
【安全航行啓蒙】 1.安全航行に関わる情報発信 2.秋の安全週間の実施 3.春の安全週間 4.安全講習会へ講師派遣	通年 2019年10月6日~10月14日 次年度へ延期 2019年2月3日	福岡(福岡市)	ホームページやフェイスブックを通して、新しい機器やサービスなど安全航行に役立つと思われる情報を発信。 艇や装備の点検整備や乗員の訓練などを再認識してもらう事業を実施。あわせて訓練中の画像(静止画・動画)を募集。 例年3月の年度末に実施していたが、今回は4月に時期を変更したため今年度は実施せず次年度実施となる。 外洋航海推進グループの安全講習会へ講師派遣。50名程度の参加。 「外洋特別規定運用の説明」「落水しないこと、ハーネス使用実践、ゲスト乗艇時の注意など実際に即した安全啓蒙」をテーマにした座学講習会。
5.ヒヤリハット体験募集	通年		安全航行への参考書アーカイブとして、ヒヤリハット体験を募集。 事故報告の義務化と重なる部分はあるかと思うが、こちらは事故に至らないケースなどを中心に情報収集する。なかなか情報が集まらないので、情報収集の仕方を工夫する必要がある。
6.海難防止強調運動へ協力 7.事故報告体制構築	通年		海上保安庁、(公財)海上保安協会、(公社)日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員に委員長が委 World Sailing規定38の事故報告義務に伴い、JSAFにおける事故報告体制構築に向けて、総務委員会、普及指導委員会、医事・科学委員会、レース委員会と共にその基準・体制作りを行った。 次年度以降は、担当する外洋艇の事故報告の授受、整理体制を委員会内に確立すること、事故報告を元にした会員へのフィードバック作りのノウハウやスキルを向上させる必要がある。
【無線局普及】 1.VHF無線海岸局の管理 2.無線船船局の普及 3.無線免許(海上特殊無線技士)取得 4.通信機器・免許などの取得許可の簡易化へ向けての働きかけ、など	通年 通年 通年 通年		71ch/74chの無線海岸局の運用認可。JSAF未登録艇の海岸局加入の審査。 民間業者(舵社)主催の免許取得講習会にJSAF会員受講時は10%割引引きとなる契約。 民間業者(舵社)主催の免許取得講習会にJSAF会員受講時は10%割引引きとなる契約。 海外で流通しているが、日本国内ではまだ法的に使用が認められていない新しい位置表示システムの機器情報を収集。
<備考:反省点等>			

JSAF アメカスカップ 委員会 委員長: 植松真 副: 西村一広

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
ユースアメリカスカップへの挑戦			日本からのユースアメリカスカップへの挑戦は、日本の次世代セーラーに、セーリングを続ける意欲を持たせ、大きな夢を与え
<備考:反省点等>			

JSAF 障がい者セーリング推進委員会 委員長: 高間 信行 副: 外山 昌一

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. パラリンピックにおけるセーリング競技の復活	通年		2024パラリンピックでのセーリング競技の復活に繋げるため主に以下の活動を行った。 (1) 2018セーリングワールドカップ(江ノ島)でのPARA種目の成功を目指す。 障がい者種目(2.4mR)へのエントリー数が不足しキャンセルされた。日本での同艇の保有台数が4艇程度のため2019セーリングワールドカップ(江ノ島)へ向け保有艇数を増やすなどの対応が必要である。 (2) 2018年パラワールドチャンピオンシップへJSAFのバックアップのもとに選手派遣ができなかった。JSAFと特別加盟団体PSAJとの連携が出来なかった。次年度以降は国内窓口を一つできるように対応を進める。 (3) 2018年ハンザクラス・ワールド選手権(広島)へ向け県連、クラス協会と連携して準備を進める事ができた。24か国191名の選手の参加があり、Hansa303シングルですで障がい者選手が3位入賞をはたした。上位入賞選手をふたすためには練習機会、場所の環境づくりに着手する必要がある。 (4) 2020年パラワールドチャンピオンシップ日本開催を実現するために開催候補地に東京を選定した。委員会としてもバックアップ体制の構築が必要である。 (5) WSのPDP広島を開催し8か国19名の参加あり。次年度以降も積極的な参加を促し選手層の育成を図りたい。
2. 障がい者セーリングの普及・強化推進	通年		障がい者セーリングの普及推進のために主に以下の事を行った。 (1) 障がい者セーリングの普及・強化推進拠点候補地(東京、和歌山、大阪、広島、大分)を普及・強化推進拠点として承認(今までの活動、設備、将来展望などについて精査し拠点としての承認をした) (2) JSAF-HPに障がい者セーリングに関する事の情報提供ページを作成し、障がい者セーリングへの理解を高めるために加盟・特別加盟団体・委員会、会員、外部への広報活動を行ってきた。情報収集能力の不足が有り対応に送れている。 (3) 障がい者セーリングの発展振興、安全のため、障がい者セーリング行事運営についてPSAJと連携しJSAF加盟・特別加盟団体向け研修を行う事ができず、委員会内に担当を置き体制を構築する必要がある。 (4) 全国障がい者スポーツ大会にセーリング競技の採用を実現するために東京都障害者スポーツ大会にセーリング競技を実現するよう働きかける。東京都へ公開競技として開催を依頼している。東京都での開催設備がないために不採用になっている。その環境改善のために、視覚障がい者も参加した2018障がい者セーリングチャレンジ東京の共同主催、第14回全日本ブラインドセーリング選手権大会の協力を行った。
<備考:反省点等>			
・対応しなければならない事項が多すぎ定期的委員会活動だけでは処理が難しいため、委員会内に専門に対応するWG(グループ)を組織したが運営が出来ていない、対応が必要である。 ・委員会活動を行う上での運営資金が無く財政基盤を作っていく必要がある(障がい者セーリングを支援する団体の開拓、活動内容にそう寄附目録見書の作成)。 ・既存の障がい者セーリングを応援してきた団体との連携をより進めて行かなければならない。			